シリーズ新石見銀山⑧

「地球遺産」の時代が来るかも

当地では数年ぶりに雪が舞う年始を迎えました。そう言えば、寒さきびしい頃、雨雪の水が軒先や岩角をしたたるとき凍ってできる氷の柱「つらら」を久しく見ていません。地方紙連載中の記事で、浜田地方では「つらら」を「なんりょう」と呼ぶことを知り、ふたつの美しい言葉から考えたことを今回は書きます。

なんりょうは、「南鐐」という江戸時代に使われた貨幣（二朱判銀）から出ているようで、美しい銀、良質の銀、または銀の異称の意味もあります（広辞苑）。「為挨拶南鐐一片持参致候」などと書かれた文書例があり、前後の文脈から、気持ちや敬意のこもった贈答用の銀貨のように感じた記憶があります。

この言葉が「つらら」につながることを知ったときは大変うれしく思いました。太陽の光にさえざえと輝く色彩や質感そして手触りを、自分たちの日常生活とは縁のない銀に結びつけた先人の感性に驚くばかりです。

しかし情緒にひたる裏側で心配事があります。「地球温暖化現象」が進んでいる現実。大気中にある温室効果ガスの濃度が安定していれば、太陽光による熱源の吸収と排出のバランスがとれます。しかし、二酸化炭素などの濃度が過度に上昇すると、地球の熱が宇宙空間に放出されなくなり結果として地球全体が温暖化します。そして、異常気象につながることにもなります。

最新の研究によれば、現在の大気中の二酸化炭素濃度は産業革命（1760年頃）前の約1.3倍、近年の地球の平均地上気温は過去1000年の間に最も温暖となっているようで、その主な原因は人間活動によるものだとされています。

石見銀山の世界遺産登録のキーワードは自然環境との調和と共生でした。目に見える景観や良好なかたちで地下に眠る遺跡などで構成されている石見銀山も、目に見えない大気の中で守られてきました。その延長線上で、全人類がいっしょになって地球への負荷を軽減する努力が必要だと思います。

わたしは、マイバッグ携帯の買い物と分別収集を徹底します。小さな行動ですが環境負荷の軽減になればと思います。このような一人ひとりの積み重ねが、未来の人類から「地球遺産」として評価されるかも知れませんね。

▲佐毘売山神社（大森町銀山地区／今年元日の年始祭）

ちょんぼし語録③

1月4日、大田市民会館で成人式がありました。新成人たちの、艶やかな晴れ着、キラキラのまぶしい笑顔が満開の会場は、まるで竜宮城のよう。

「もしもこの会場に、生粋の大田のおばちゃん2人がいたらどんな会話をするんだろう」などと思いを巡らせながら、ふるさと情報ネットワークの勧誘をしておりました・・・。

【用例】

おばさんA：「なんと、あのあんじょ、袴のすそをぞびいて歩いとるで。さでまくれにゃいいが」
おばさんB：「あら、あのあんじょ、○○さんところのあんじょだでな」
おばさんA：「ほんにな？もうあが～になるだかいな。あそこの大っきなおじいさんが、ほんそほんそして懐に入れて育てちゃったが～。よう『さんのあ』を連れて歩いとっちゃったに」
おばさんB：「そがそが。そいだが、高校のときは、いなげな頭しとったで、『はあ、ほんそほんそして育てりゃこがなことだいなあ』と心配しとったが、はあ立派になって」
おばさんA：「あっちで大話こいとるのは、やどの分家の子だに～！こまい頃は、アオンバナ垂らしとったに、ごうげにべっぴんになって！たまげたわ～!!」
おばさんB：「そがだいなあ。よその子は大きんなるのが早いが～、ワシらも歳とるはずだてや、わっはっは！」

【訳】

おばさんA：「ちょっと、あの男の子、袴のすそを引きずって歩いているわ。派手に転ばなければいいけれど」
おばさんB：「あら、あの男の子、○○さん家の息子さんですよ」
おばさんA：「本当?もうあんなに大きくなったのねえ。あそこのひいおじいさんが、本当に可愛がって育てておられましたよね。よく『さんのあ』で連れて歩いておられるのを見ましたよ」
おばさんB：「そうそう。だけど高校生の頃は変な髪形をしていたから『かわいがって育てるとこんな風になっちゃうわねえ』と心配していたけれど、立派になったわねえ」
おばさんA：「あっちでおしゃべりしてるのは、我が家の分家の子だわ！小さな頃は鼻水を垂らしていたのに、たいそう美人になって！びっくりしたわ～!!」
おばさんB：「そうよねえ。よその家の子は大きくなるのが早いわねえ、私たちも歳をとるはずよね、わっはっは！」